

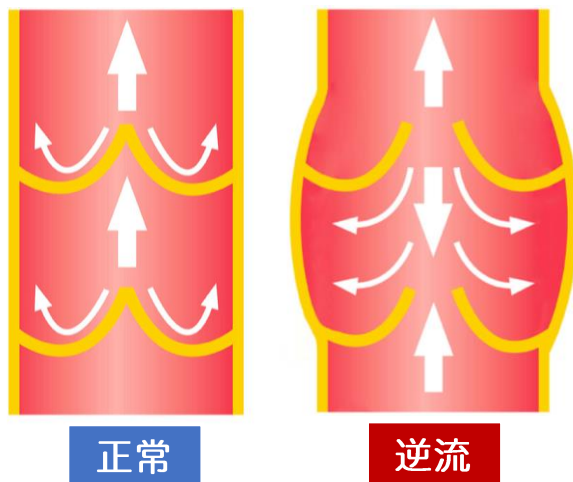
下肢静脈瘤外来 開設の お知らせ

- ✓足の血管が浮き出ている
- ✓足がよくつる
- ✓足がよくむくむ、だるい
- ✓足の色が変わってきた …など

足のトラブルに悩まされていませんか？
ひょっとしたらそれは【下肢静脈瘤】
かもしれません。

下肢静脈瘤 とは、足の静脈がコブ状にふくらむ病気です

血管には動脈（心臓から全身に向かう血管）と静脈（体から心臓に返っていく血管）の2種類があります。下肢静脈瘤は、静脈の病気です。静脈には細胞から出た老廃物を心臓に返す役割がありますが、足の場合は重力に逆らって血液を送る必要があります。そのため血液の逆流を防ぐ「弁」が静脈には備わっています。下肢静脈瘤は、この弁が壊れてしまうことで生じる病気です。弁が壊れてしまうと、血液は逆流し、足先の近いところに溜まり、静脈がこぶ（瘤）のようにふくらんでしまいます。



下肢静脈瘤 の症状

下肢静脈瘤には以下のような症状があります。

- ① 血管がこぶ状に浮き出る、蜘蛛の巣状の血管がある
- ② 足がむくむ
- ③ ふくらはぎのだるさ
- ④ 歩くとふくらはぎがはる、痛む
- ⑤ 寝ている時にこむら返りが起こる
- ⑥ 湿疹や色素沈着(進行すると、潰瘍ができたり出血することがあります)

ただし、足の症状の全てが、静脈瘤が原因という訳ではありません。



このような人は要注意！

どのような人に静脈瘤ができやすいのかというと、

- ① ご高齢で筋肉量の落ちた方
- ② 立ち仕事の方
- ③ 妊娠・出産を経験された方
- ④ 家族に静脈瘤をお持ちの方
- ⑤ 女性
- ⑥ 肥満のある方
- ⑦ 便秘がちの方
- ⑧ タバコを吸われる方

ご高齢で筋肉量が落ちる、立ち仕事が多い、妊娠して腹圧が上がる、肥満などがあると、静脈の圧が高くなり、弁の機能が障害されます。家事などの立ち仕事、妊娠などが影響するため、女性の方が2～3倍多いとされています。

どうやって診断するの？

下肢静脈瘤の診断には超音波検査を用います。静脈に逆流があればその場で診断が可能です。検査による人体への弊害はありません。

治療が必要な方とは？

静脈瘤の患者様すべてに治療が必要な訳ではありません。静脈瘤は良性の病気です。ただし、自然に良くなることはありません。また、立ち仕事の方では現在症状がなくても、今後悪くなりますので、治療が必要になることがあります。

治療が必要なケースとしては

- ① 外見が気になる
- ② 症状があつてつらい
- ③ 湿疹、色素沈着、
潰瘍など皮膚症状がある

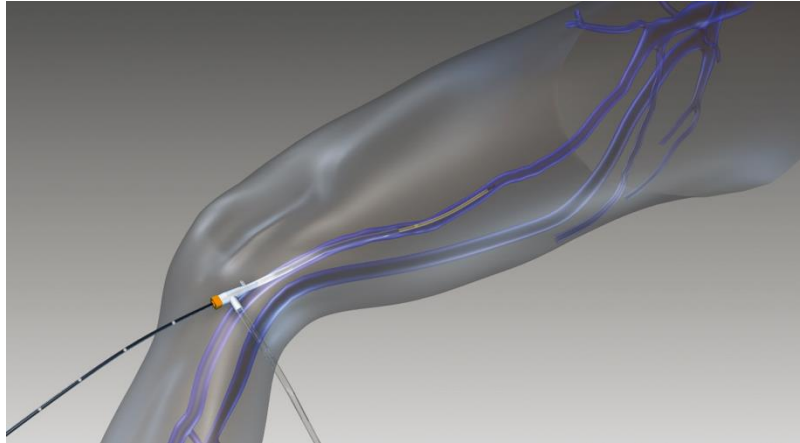
のような場合です。

血管がこぶ状に出いていても、それのみで破裂して出血することはありません。



実際の治療とは？

適応に合致した場合、私たちの施設ではカテーテルという細長い管を血管に挿入し、高周波エネルギーによる熱で内側から血管を焼灼させて、血管を閉塞させます。日帰りもしくは1泊の入院で治療が可能です。治療直後から歩行などが可能です。



この治療方法は安全で再発の少ない治療ですが、極めて稀に肺動脈血栓塞栓症を起こすことがあります(0.1～0.2%)。当院では、こまめに創部のチェックをするなど、万全の体制をとっています。

茨木みどりヶ丘病院 下肢静脈瘤外来

外来日時：毎週水曜日、土曜日 9～12時

担当医：馬庭 直樹

(循環器専門医、総合内科専門医、抗加齢医学会専門医、心臓リハビリテーション指導士)